

令和3年度 病害虫防除技術情報 第6号

令和3年9月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

施設果菜類の灰色かび病の発生に注意が必要です

今年の8月は平年よりも降水量が多く、日照時間も少なかったため、施設栽培の夏秋トマトでは、灰色かび病の発生が平年よりも多く確認されています。

本病は多湿条件で発生が助長されますが、1ヶ月予報（8月26日・福岡管区气象台発表）によると、8月28日以降の気象は降水量が多い確率が40%と予報されています。今後は、圃場内での灰色かび病の発生状況に注意し、早期対策に努めてください。

【作物】施設果菜類（トマト、ピーマン、イチゴ等）

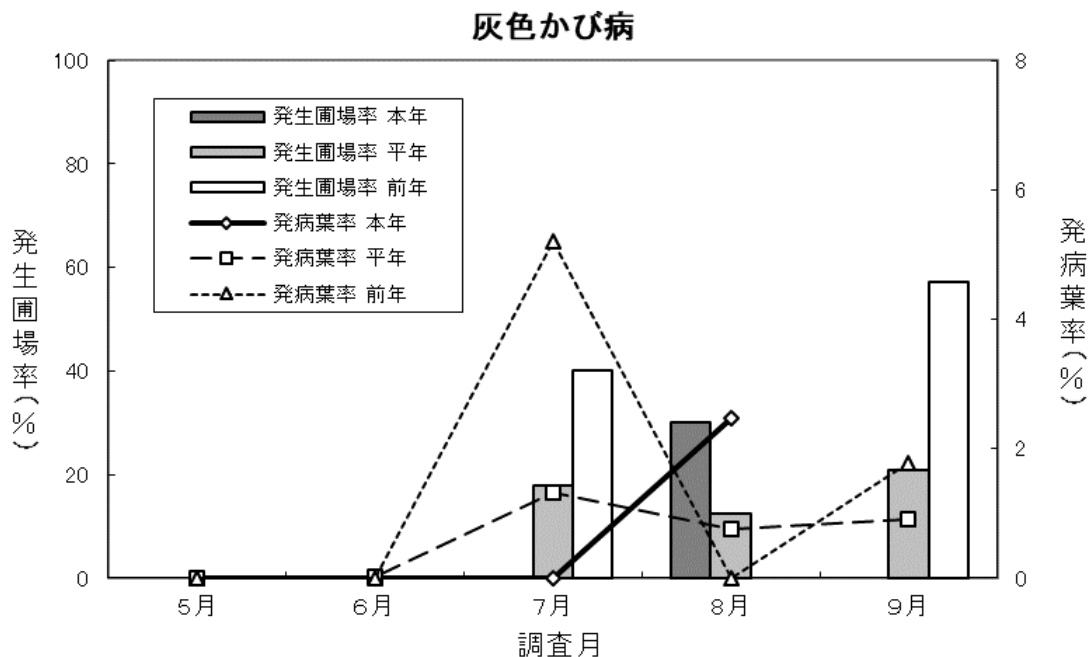
【病害虫】灰色かび病

1. 施設栽培の夏秋トマトにおける灰色かび病の発生状況

8月16～20日の巡回調査では、発生圃場率、発病葉率ともに平年より高かった。

発生圃場率：30.0%（平年：12.5%、前年：0%）

平均発病葉率：2.5%（平年：0.8%、前年：0%）



2. 防除上の注意事項

- ア 発病果や発病葉は伝染源となるので、見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に深く埋める等の処分を行う。
- イ 適切な肥培管理で植物体が過繁茂にならないようにする。また、適度な整枝や葉かきを行い、通気をよくするとともに殺菌剤がかかりやすくする。
- ウ 薬剤散布時には天候に留意し、薬剤散布後の施設内が速やかに乾燥するように注意する。
- エ 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>

